

CGコード・CGSガイドライン改訂で
さらに高まる

ポスト平成時代の 社外取締役の役割

第1部

トップ人事・報酬にも積極的に関与

社外取締役のあり方と実務上の課題

経験者の専門家はどうか

社外取締役の現状と今後の役割

第2部



監督者としての立場を意識して

社外取締役の責務とユーグレナでの活動



会社との適度な距離感が重要

社外取締役経験の公認会計士としての実感

企業不祥事が相次ぐ昨今、ガバナンスに求められるものが一層厳しくなるなか、独立した立場で経営陣を監督する社外取締役は、その重要度がより増している。

そこで、コーポレートガバナンス・コードやCGSガイドラインの改訂をもとに、ポスト平成時代を迎えるにあたり、新たに社外取締役に求められる役割を解説する。また、社外取締役経験を有する弁護士・公認会計士に、その経験から感じた社外取締役の実務のあり方や留意点を披瀝してもらった。今後の実務の参考にさせていただければ幸いである。